

## 榊原家文書目録解題

本目録は上越市立高田図書館に所蔵される「榊原家文書」を収録したものである。

「榊原家文書」は、寛保元年（1741）から明治4年（1871）まで高田藩主として在封した榊原家の藩政史料と、その家臣数家の史料を中心に編成された史料群である。

榊原家に伝えられた史料は現在、榊原家（東京都）と榊神社（上越市）、そして上越市立高田図書館の3ヶ所でそれぞれ所蔵していることが分かっている。本来一つの史料群だったものだが、いつの時点でそれぞれ分けて所蔵されるようになったのかは、はっきりとしない。

ただ高田図書館蔵の「榊原家文書」の場合は、その伝来は図書館の歴史と深い関わりをもっている。

高田図書館は明治41年（1908）6月、「県社榊神社三百年祭記念立高田図書館」として、旧高田藩士族によって設立された。その目的は藩校「修道館」の蔵書を広く公開するためであったという。発起人は高田藩中老を務めた清水広博（ひろあつ）で、開館後は図書館主事を務めた。

このように榊神社による私営図書館としてスタートした高田図書館の書庫には、修道館の蔵書ばかりではなく、藩や大名家に伝来した「榊原家文書」があったはずである。

高田図書館は明治41年に高田町営となり、同44年市制施行によって高田市営となって現在に至っている。これによって「榊原家文書」も高田町に寄贈され、高田図書館で所蔵するものとなったと考えられる。

現在高田図書館に所蔵される「榊原家文書」は、厳密な意味での「榊原家文書」ではない。榊神社から寄贈された「榊原家文書」にあわせて、本来高田藩中老清水家に伝来したと思われる史料群が多数混在している。中には高田図書館創立前年の明治40年に「真清水文庫」という史料群が存在していたことを示唆する史料もある。また、創立後の図書館としての経営の中で、旧藩士家に伝来した史料の寄贈を受け、これらも取捨選択され「榊原家文書」に吸収されていく。例えば昭和29（1954）年4月に刊行された「市立高田図書館郷土史料目録」には、「榊原家文書」と旧高田藩士庄田直道が収集・編纂した「庄田家文書」は別のものとして登録されている。これに対し、昭和59年に刊行された「上越市立高田図書館古文書資料目録」では、「庄田家文書」のうちその大半が「榊原家文書」に含まれている。そもそも「庄田家文書」そのものが、庄田直道らによる明治初年以降の地誌編さんの過程で収集された史料群であり、本目録に収録されている「万年覚」や「記録便覧」も、本来領奉行所や町会所あるいは高田町惣年寄森家に伝来したもので、庄田直道が収集したものである。

ほかにも特に記録はないが、蔵書印などから多くの史料群の一部が混在していることが推察される。このように高田図書館蔵「榊原家文書」は複合的な史料であるといえよう。

今後、榊原家所蔵の「榊原家文書」や榊神社所蔵「榊原家文書」とあわせて、それらの史料が作成された背景、すなわち榊原家の組織やその機能について研究が進むこと、また高田図書館に所蔵される未整理史料の調査が進み、高田図書館所蔵史料の全体像が明らかにされることが期待される。

天明五年

信州通御道中日記

己九月朔日自白河

000-10

庚

「信州通御道中記」(天明5年)  
9月1日より8日まで  
参勤交代の際につけていた道中記

己九月朔日自白河  
一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚

一 往新井宿 宿名今佳甚別 行路甚